

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りで、理念を唱和している。また、理念に基づき、事業計画を作成しており、施設の目標を明確にしている。目標に沿った運営が行えるよう申し送りや定例会議で話し合っている。	法人理念が事務所内に掲示されており、日々の申し送り時に唱和し周知徹底を図っている。理念に基づき事業計画を作成し、利用者、職員が一体感のあるホームを目指し活動している。理念にふさわしくない言動があった場合には管理者や先輩職員が指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を行事に招いたりすることで、地域との連携を図るようにしている。	法人として自治会費を納め地域の一員として活動している。地区区民運動会にホームとして招待され「パン食い競争」等に参加し楽しんでいる。中学生の職場体験の受け入れも引き続き行われている。行事等で併設のデイサービスと連携し、「懐かしの歌」、「フラダンス」、「太鼓」等の地域のボランティアを受け入れ利用者との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族やボランティア参加の季節行事を取り入れ利用者様の様子を良く知って頂ける機会にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。施設での取り組み等の報告を行い、意見や指導を頂いている。	2ヶ月に1回、家族代表、区長、地域包括支援センター職員、ホーム職員など、関係者が参加し行われている。利用者の現状報告や活動状況、要望等について話し合い運営の向上に役立っている。第1回目となるグレイスフル辰野、第2グレイスフル辰野の併設施設も含めて6事業所合同の運営連絡協議会が実施され、多岐に渡る活発な意見交換が行われ有意義な会議となり、それぞれのホームの取り組みに活かして行くことが確認されたという。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に保健福祉課へ訪問し、連絡を取り合っている。	毎月、町の保健福祉課を訪問し様々な相談をしたり、利用者の紹介を頂いている。介護認定更新調査は調査員が来訪し実施している。町主催の連絡協議会にも積極的に参加し情報を得ると共に協力関係を深めるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の方針でもあるが、身体拘束は現在行っておらず、職員にも周知している。	玄関は日中開錠されている。離接傾向の強い利用者があるが気持ちを考え納得するまで寄り添い話をし散歩に出て対応している。現在、行動を制限する必要のある利用者はおらず、一日数回所在確認を行うと共に利用者の安全を主としホームの回りに人感センサーを設置し万が一に備えている。また、法人で実施される研修会に出席し、拘束をしないケアを徹底している。	

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	エリア内の各会議の中で学ぶ機会を持っている。現在、自宅や施設内での虐待がある事実はない状況である。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	エリア内の各会議の中で学ぶ機会を持っている。現在、制度を活用することが必要な利用者様はいない状況である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の面接時には、利用者様、ご家族に契約書、重要事項説明書を用いて、丁寧に説明しており、同意も得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を重要事項説明書に明記している。毎年、満足度の調査アンケートを実施している。また、利用者様の「つぶやき」を記録しており、その「つぶやき」の内容をサービスの改善につなげている。	意思表示の出来る利用者は半数ぐらいであるが、個人別の「つぶやき」をシートに記録し個々の思いに寄り添うように心掛けている。家族の来訪は多い方から少ない方まで様々であるが全家族の来訪があり、その都度、意見や要望を聞いている。家族交流会も年2回行い、日帰りでの食事会も家族同伴で実施し利用者や家族、職員との交流を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや、毎月の定例会議にて、各職員と意見交換を行っている。	ホーム会議を月1回実施している。事前にアンケートを取り議題に取り上げ運営の向上に役立てている。欠席者には議事録を回覧し周知している。目標管理制度があり、年度初めに管理者が個人面談を行い意思の疎通を図っている。併設のデイサービスと合同の懇親会を行ったり、辰野ほたる祭りには法人して「おどり連」を作り職員が参加しチームワークを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシート、実績評価表を基に個別面接を行うようにしている。優秀職員個人賞、チーム賞、理事長賞等の表彰制度を取り入れており、各職員の意欲に結びつけられるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スーパースターシートに基づき、各職員がチャレンジする項目を明確にするようにしている。また、法人内の交換研修を行い、他の事業所や他部門の研修を行っている。法人外の研修にも参加をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	辰野町運営協議会や、介護予防事業を受けている事業所との定期的な会議を設けて、相互の活動の様子を情報共有することをしており、それをサービスの質につなげるようにしている。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面接において、ご家族だけではなくご本人にも同席して頂き、利用者様の不安や要望もお聞きするようにしている。面接内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接において、不安や要望等をお聞きするようにしている。面接した内容は、フェイスシートに記録すると共に、暫定ケアプランに反映することをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学に来て頂き、概要を説明した上で、入居申し込み用紙を記入して頂いている。相談内容からグループホーム以外の利用が適切と判断した場合は、他施設の利用も紹介するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の様子観察を十分に行い、その立場に立ち会話をし、思いを知るようにしている。利用者様の思い等の情報は記録に残し、職員全員で理解するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様とご家族と一緒に過ごせる機会を作るようにしており、一緒に過ごす時間を楽しみてもらえるようにしている。家族交流会の場では、家族同士も喜びや悩みを共有することができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出に出かける際は、馴染みの場所に出掛けられるようにしている。ご家族以外の訪問者も、ご家族の承諾を得た上で、受け入れている。	家族より事前承諾を頂いている友人や知人の来訪がある。電話をされる利用者があるが職員が手伝っている。職員が毎日食材の買い出しに出掛けているが、その時、交代で1名ずつ利用者も同行し馴染みの店で自分の欲しい物を買って楽しんでいる。利用者同士の関係も職員が間に入り、馴染みの、良好な関係となるように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理や共有スペースのお掃除、洗濯物干し、たたみ物、食器拭き、片づけ等の活動時には、仲の良い利用者様同士と一緒にやる配慮をしたり、その方の得意な分野をお願いするようにしている。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の為、退居された方については病院へ伺ったり、他の施設への入居をされた方については、その施設へ様子を伺いに行くようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のプロフィール表を確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映できるようにしている。	日々の「つぶやき」を大事にし、家族からお聞きした生活歴も参考にし、希望や意向の把握に努めている。意思表示の出来ない利用者については二者択一でお聞きし、言葉づかいに気をつけ、相手の立場に立って物事を考え支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様のプロフィール表を確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様のプロフィール表を確認し、利用者様の生きてきた人生の背景を知るようにしている。利用者様・ご家族の要望は、アセスメント用紙に記載し、ケアプランに反映できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体状況、認知症状の変化の観察に努める他、利用者様との会話、ご家族との情報交換を大切にすることでケアプランを作成するようにしている。	職員は2名の利用者を担当し、日々寄り添う中でアセスメントを行っている。申し送りなどで話し合い、家族の希望もお聞きし何もなければ6ヶ月に1回ケアプランを見直し、変化があればその都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を毎日残すようにしている。また、利用者様の表情の変化や、つぶやき、ひやり・はっとした内容についても記録に残し、サービスの工夫につなげるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な場合は、病院受診や、個別外出について、職員が付き添うようにしている。ご本人の居室にご家族が宿泊することもできるようにしている。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の意向に沿って、ボランティアを導入できるようにしている。また、無断外出による利用者様の捜索や、災害が起きた場合については、警察、消防署と連携が行えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様が受診している主治医との情報共有を行い意見を聞きながら対応している。	かかりつけ医については利用前からの主治医を継続している方が三分の二強で、残りの方がホーム協力医という状況である。定期受診は基本的に家族に対応していただいている。歯科については協力医の往診で対応している。訪問看護ステーションと契約しており、24時間対応で週1回の来訪もあり利用者の体調管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	辰野町の訪問看護ステーションと契約を結び、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホーム内での生活の様子を病院に情報提供している。また、退院時は、各利用者様のかかりつけ医や、協力医療機関である辰野病院からの情報を確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針を共有することをしている。利用者様の状態が、治療・療法・看護等を常時必要とする状態になることが考えられる場合は、他のサービスを変更される方が多く、相談にのれるようにしている。	重度化についての法人の指針があり利用契約時に本人や家族に話している。重度化や終末期支援についてはグループホーム本来の支援の在り方を崩さず、状況の変化に合わせて、家族、主治医、ホーム職員で話し合いを重ね医療機関、同じ法人内の施設等に移れるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアル、事故発生時対応マニュアル等のマニュアルを作成して、周知している。連絡方法や職員の動きを明確にしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施している。	年2回、春と秋に消防署員参加の下、消火、通報、避難訓練を実施している。町の総合防災訓練にも参加し、本年度は水害を想定して利用者全員を階段を使って2階へ避難する訓練を行った。避難時間ははやかったものの当日の職員が力を合わせ工夫をし、全利用者を移動させるという体験ができた。また、夜間一人体制の緊急連絡マニュアルの確認も行っている。備蓄として水、お米、おかゆ、介護用品等、三日分が保管されている。	

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	エリア内の研修に参加し、利用者様へのアプローチに成功した事例、失敗した事例を分析し、利用者様を尊重した言葉かけが行えるように定期的に振り返ることをしている。	自己決定を重んじ言葉遣いには気を使い接している。居室に入る際には必ずノックをしている。呼び掛けは人生の先輩である利用者に尊敬の念を込め「苗字」にさん付けでお呼びしている。法人エリア内での人権やプライバシー保護の研修会に参加し、日々、振り返りを行い実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に選択してもらうことを心掛けて言葉掛けをしている。利用者様の日々のつぶやきに耳を傾け、つぶやきに記録をし、希望に合わせた支援に努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お掃除、洗濯、食事作り、お買い物等行う前に必ず、お声を掛け確認後行って頂いている。体調や気分に合わせて参加ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望を確認して、理美容の予約をしている。衣類購入は、好みを良く知っているご家族にお願いしている。着替えの際には、着たい洋服を選んで頂きサポートしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒に行って頂き、食材を選んで頂いている。プロフィール表や日頃の会話から、各利用者様の好みを把握している。準備、片付けの役割も定着していて、ご自分から行って下さる方もいらっしゃる。	希望でおかゆ、一口大にする方が若干名いるが全員自力で食事が摂れる状況である。献立は法人が立てたものを使い、食材は職員が利用者と共に毎日買い出しに行き調理をしている。お手伝いも利用者個々の役割があり、その中で、調理、配膳、片付けと、いきいきと行っている。夏場にはホームの畑で利用者と共に栽培した野菜や家族から頂いたものが食卓に上っている。正月、ひな祭り、地域のお祭り等には利用者の希望を聞き、特別食を楽しんでいる。誕生日会はケーキを作りお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医とも、情報共有し、食事量や栄養バランスに注意が必要な利用者様について把握し指導を頂いている。プロフィール表やご家族とのカンファレンス時に情報を頂き、支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促している。定期的に口腔の清潔保持に関するアセスメント、評価を行い、その内容に基づいて、サポートを行うようにしている。また、協力歯科医院に訪問してもらい、口腔ケアに関する指導を受けている。		

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサポートが必要な方については、排泄に関するアセスメント表や、個人記録を確認して排泄パターンを把握しその方に合わせたトイレの声かけ、誘導を行っている。	自立されている方と一部介助の方がほぼ半数ほどである。布パンツを使用している方が三分の二強おり、残りがリハビリパンツとパット使用の方で、夜間のみポータブルトイレを使用する方が若干名という状況である。基本的に毎食後と就寝前に声掛けを行っているが、排泄チェック表を用いパターンを把握し様子を見て声掛けを行う利用者もいる。人前で失敗することもあるが他の利用者に分らないように浴室やトイレへお連れし対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、牛乳をお勧めしている。食事の際に乳製品、果物の提供をしている。また、有酸素運動、散歩などを行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のその日の様子、希望を確認し、入浴前に体温、血圧等測定し、安全に入浴が行えるようにしている。また、安全な範囲で好みの湯温で入って頂けるようにしている。	基本的には週3回を目安に入浴している。希望で毎日入浴される方もいる。見守りで入浴される方が三分の一、一部介助の方が三分の二という状況である。入浴拒否の方も若干名いるが言葉を変えるなどの工夫を対応している。広々とした浴室で入浴剤を使い、温泉気分を楽しんでいる。家族と日帰り温泉に出かける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別にお声を掛け、居室やソファにて休んで頂けるようサポートをしている。夜間については、定時の巡視を行い不眠の方については、定期的にアセスメントを行い、サポートをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時にお薬の処方箋を出して頂き、施設へも情報提供してもらえるようにしている。処方箋をファイルに保管することで、職員間で情報共有し適切な内容で服薬が行えるようにサポートしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のプロフィール表を利用し、個々の生活歴を把握することをしている。利用者様が希望する役割や、楽しみごとはケアプランにも反映し、張りのある生活につながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により、買い物やドライブ、散歩を行っている。毎月のレク担当者による計画を立て、外出、外食、季節毎の行事を行っている。	外出時に杖を使用する方が若干名いるが、全員が自力歩行である。天気の良い日には近くのお寺へ散歩に出掛けている。毎日の買い物時にドライブを兼ねお花見をしたり、年始には近所の神社に初詣に出掛けるなど、四季折々に外出している。秋には家族同伴で、伊那市の温泉施設ヘデイサービスの車を借り食事会も兼ね出掛けたという。	

グループホームグレイスフル辰野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理のお金の持ち込みは、認知症による管理能力の低下も踏まえ、最小限にして頂いている。ご本人やご家族からの希望が無い場合は、金銭管理の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙等のやり取りをしている利用者様はいらっしゃらないが、ご家族への電話を希望された時には、電話で話ができるようできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃の写真を展示したり作品を置く工夫をしている。また、台所や浴室についても、各物品を使いやすいように整えている。テレビや音楽の音量、光、照明についても利用者様に確認し調整している。	6畳ほどのスペースがあった量の居間はバリアフリーのフローリングに貼り替えられホール兼食堂が広々としたものに変貌した。大型テレビやソファが置かれており利用者の寛ぐ姿を見ることができた。廊下の壁には利用者の日常を映した写真、一日の行動予定表、食事の献立等が掲示されている。空調は床暖房とエアコン使用で快適である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室には使い慣れた家具を置いて頂くようにしている。また、共有スペースにも、テーブル、椅子、ソファやコタツを置いてお好きな場所で、自由にくつろぐことができる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や、カンファレンス時に、ご家庭で使い慣れた家具や生活用品をご準備して頂くことをお願いしており、各利用者様の生活習慣や好みに合わせた環境に整えている。	各居室は洗面台付きで物入れも天井からの吊戸棚で生活し易さを考えた造りとなっている。窓ガラスも二重サッシで厚手のカーテンが使われ遮音と冷暖房効果を考え居心地よく過ごせるようになっている。また、各居室には「加湿器」が設置されており、ホーム全体でインフルエンザ対策に取り組んでいる。居室の中には思い思いの写真や好みの物が置かれ利用者一人ひとりの生活の場にふさわしいレイアウトになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ等に手すりの設置をしている。また、日々の様子を観察し、改善が必要と思われる所の改善、工夫を行っている。		